

自分の考えや思いを英語で伝え合うことに喜びを感じる児童生徒の育成をめざして

越ヶ浜中の
英語の取組

小中高連携英語教育推進校の指定を受け、今年度は英語科の授業で昨年度までとは異なる試みを行っています。この日は、オール・イングリッシュの授業。時々生徒の口から日本語が無意識的に出てしまうことはありますが、生徒は英語を聞くことには随分慣れてきた様子が伺えます。

1年生 話して書く！文字に慣れる必要がある1年は「話す」「書く」のバランスを意識！



1年生は、引いたカードに書かれたフレーズを用いて、ALTの先生に質問をしていました。「be動詞」「do動詞」「助動詞can」を使い分けながら、疑問詞のある疑問文を作るのは、なかなか難しいものですが、みんなしっかりとした文を作っていました。話した内容がすぐ後のライティング活動につながっており、「書く」活動も確保されています。

2年生 「自分から」理由をつけ足すことで、英語力も相手意識もアップ！



2年生は、授業前からフレーズノートを開いて、最初の活動に備えようとしている生徒もいました。帯活動ではいつものように、ペアで与えられたトピックについて話した後、そのトピックについて、今度は自分だけで1分間しゃべり続けます。聞く生徒は語数を数えます。・・・と、ここまではウォームアップ。この日の授業では、英語において「理由をつけて話すこと」の必要性について学びました。先生同士のデモンストレーションを見た後の活動では、場面設定が与えられ、生徒同士や先生とのペアトークの中で、理由をつけて話すことを実践しました。難しい課題でしたが、今までに学んだ表現を活用しようとする場面が今まで以上に見られ始めています。言いたいことが言えず壁にぶち当たることの連続ですが、これを乗り越えることで、伝えることができる本当の喜びを味わってほしいと思います。

3年生 ゴールは受験ではない！？本当に使える英語力をめざして！



3年生は、ALTの先生によるリスニングから。「What makes you 形容詞？」というmakeの使い方を学んだ前時の知識を生かして、リスニングやペア活動が組まれました。相手を変えて何度も繰り返すペア活動の合間で、生徒が言いたかったけれど言えなかった表現を拾い上げて、教師がホワイトボードに書いていきます。「教科書に出てこない」ものでも、どんどん生徒に伝えていきます。これは、今年度どの学年でも共通していることですが、「教科書にあるかないか」ではなく、「伝えたいことを表現する」ために必要なら覚えるようにします。そして、生徒たちが学んだことを活用できる授業を目指して、私たち教師も日々精進しています。